

楽しかった、本当に。やっとな浦山君と恋ができたんだもの――

三十年ぶりの同窓会、
一瞬にしてあの頃に戻った……
そしてふたりは恋に落ちた。



コキユ

貝殻

小林 薫 風吹ジュン

益岡 徹 深水三章 吉村 実子

中原 俊 監督作品

製作:中川滋弘/プロデューサー:成田尚哉・榎 望/企画:畠中基博
原作:山本おさむ「コキユ〜貝殻」(小学館)/脚本:山田耕大/音楽:山田武彦(Epic/SonyRecords)
撮影:上野彰吾/照明:赤津淳一/録音:志満順一/美術:稲垣尚夫/編集:冨田功・冨田伸子
製作協力:ポノポノ/企画:PUG POINT

製作:松竹株式会社 配給:日本ヘラルド映画

第11回東京国際映画祭コンペティション公式参加作品





コキユ

貝 殻



同窓会で再会した男と女 初恋の思い出に切なく心ふるえる

同窓会で30年ぶりに再会した男と女。もう決して若くはないけれど、たがいの顔を見た途端、あのころの初恋の思い出がよみがえる――。

だれもが心の奥にそっと大切にしまっている、初恋の心ふるえるような思い出。そしてまた、だれもが経験したことがある、懐かしくてちょっと気恥ずかしい同窓会での旧友たちとの再会。そんな身近な素材から、こんなにもロマンティックで切ない大人のラブ・ストーリーが誕生した。

“私の耳は貝の殻 海の響きを懐かしむ”――30年のときを一瞬に飛び越すふたりの想い

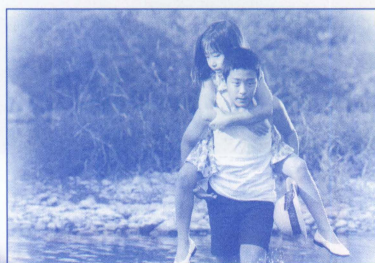
あの中学時代から30年。女はずっと男のことを思い続けていた。結婚しても、子供が生まれても、その想いは変わらなかった。少年からもらった白い貝殻と、ジャン・コクトーの詩の一篇“私の耳は貝の殻 海の響きを懐かしむ”を、

唯一の心のよりどころに生きてきた。

そして、離婚して郷里に戻ってきた彼女は「コキユ」という名のスナックを開く。コキユとは「貝殻」という意味だった。

男は平穏な家庭生活を送っていた。会社でも有名な、まじめで品行方正な男。そんな毎日になんの疑問も抱かなかった。しかし、女との再会が彼の心に大きな波紋を呼び起こす。少年の日の記憶の上に、新たな想いが重なって、二人は帰らぬ昔を懐かしむように初恋の甘い感情に身を委ねていく。

二人は今、一緒に呼吸していた。一体になったように感じた。しかし、同時に彼らにはこれまでの人生があった。30年の月日は二人の想いを遮断せずにはおかない。だが、思いがけない運命が二人を待っていた――。



〔小林薫+風吹ジュン〕×中原俊 この絶妙なトリオによる 最高のメロドラマ

良質なメロドラマのエッセンスを詰め込んだこの映画の原作は、『遙かなる甲子園』などで知られる漫画家、山本おさむ。

そして監督は、「12人の優しい日本人」「櫻の園」「Lie lie Lie」など、リズムカルで洒落た演出で知られる中原俊。主人公たちと同世代の監督だけに、二人の想いを力強く映像化している。地方都市の風情をてらいなく写し撮った繊細で優しい映像が、見る者を郷愁へと誘い込む。

30年も女から思われ続けていた幸せな男、浦山には小林薫。どこにでもいるような平凡な男の、つかの間の花火のような恋心を抑制された演技で表現し、映画に真実味を加えている。また、過去の思い出を胸に、浦山に静かな情熱を抱き続けてきた直子には風吹ジュン。“中年”のバツイチで、中学生の娘の母という現実を抱えながら、少女のように恋に憧れ、恋を楽しみ笑顔が美しい。この二人の演技派のさりげない表情とやりとりが、見る者の心のひだに触れ、主人公たちの熱い想いを伝えてくれる。

小林 薫 風吹ジュン

益岡 徹 深水三章 吉村実子
林泰文 梶原阿貴 金久美子
浜丘麻矢 二瓶鮎一 岩松了 高瀬春奈

中原俊 監督作品

製作:中川滋弘/プロデューサー:成田尚哉、榎望/企画:島中基博/「フジテレビ」呼「ユキ」:霜村裕
原作:山本おさむ「コキユ-貝殻」(小学館)/脚本:山田耕大/音楽:山田武彦(Epic/SonyRecords)
撮影:上野彰吾/照明:赤津淳一/録音:志満順一/美術:稲垣尚夫/助監督:杉野剛/装飾:尾岡龍生
衣装:宮本まお江/メイクアップ:小沼みどり/編集:富田功、富田信子/記録:川瀬恵美
製作協力:ポノボ/企画:PUG POINT
製作:松竹株式会社 配給:日本ヘラルド映画

第11回東京国際映画祭コンペティション公式参加作品

名手・中原俊がおくる大人のラブストーリー

GWロードショー

(土日祝)10:30 ①12:30 ②2:30 ③4:30 ④予告なし6:30 【各回入替制】

心斎橋アメリカ村 BIG STEP 4F
パラダイスシネマ
06(6282)1460

前売鑑賞券¥1500 発売中
劇場窓口・市内各所のプレイガイドにて。
窓口でお求めの方は先着でポストカード付

